

# 2023 年度 第 6 回理事会 議事録 2024.1.18

日時：2024 年 1 月 18 日（木）19：00～21：42

開催方式：オンライン開催

場所：自宅または職場

出席理事：神保武則（会長）、田中ゆかり（副会長）、吉本雅一（副会長）、玖島弘規（事務局長）、奥原孝幸、望月強併、遠藤陵晃、青木啓一郎、佐々木秀一、野本義則、澤口勇、神田崇央、神保洋平、金山桂（15 名）

出席監事：錠内広之、野々垣睦美（2 名）

欠席理事：山勢健太郎、佐藤隼、佐藤範明（3 名）

その他出席者：大郷和成（エリア化推進委員会）兵頭夏海（事務局部員）、薄井文香（事務局部員）

## I. 会長より挨拶

本年もよろしくお祈りいたします。まずは能登半島の災害で亡くなられた方のご冥福をお祈り致します。また被災された方のお見舞いを申し上げます。協会で支援金の取りまとめを行いました。1 月から 3 月までの期間となっています。組織を助け合っていたらと思いますので、我々としても何かしらで支援ができたと思っていますのでよろしくお祈りいたします。

## II. トピックス 地域支援活動助成金の支給決定について(エリア化) 大郷氏

助成対象事業者：「WheeLog! in 小田原」 車椅子街歩きイベント

事業内容は車椅子に乗って地域のバリアやバリアフリーを学ぶ体験型ワークショップを開催する。車椅子ユーザー以外の参加者も車椅子に乗って街歩きを行う。実施に当たっては一般社団法人 WheeLog が運営するバリアフリーマップアプリ『WheeLog!』や街歩きイベントの手法を活用する。

助成金支給の要件は満たしており、実施要項に沿った内容となっている。

今年度はモデル事業のため。事業予算を 3 万円としていたが実施要綱が 5 万円となっており、5 万円の申請があった。エリア化の事業予算で賄うことができるため、5 万円の支給について審議をお願いしたい。

→賛成多数で承認

## III. 審議事項

### 1. 後援依頼（事務局）

- ・日本医療マネジメント学会第 23 回神奈川県支部学術集会

→賛成多数で承認。

- ・建築スキル貢献委員会福祉部会 2023 年度第 1 回研修会「専門職連携 住宅改修ワークショップ」

→賛成多数で承認。

- ・小田原®フェス(旧リハビリフェスタ)

→賛成多数で承認。

### 2. 部員申請（事務局）

学術部 1 名、教育部 2 名、地域リハ部 1 名

→賛成多数で承認。

### 3. 2024 年度休会申請（事務局）

9名の休会申請あり

→賛成多数で承認。

#### 4. 謝金規程の変更について（規約委員会）

現行の謝金規程では、日本作業療法士協会、神奈川県士会員は該当区分支払額の5割相当額となっている。協会も謝金規程を変更しており、当会もあわせて規程変更を行いたい。

<質疑応答>

Q.謝金支払いについて全て上限額で支払いを行うのか。

A.規程の中では原則として上限を支払うということになっている。

しかし半日や1日研修の場合、高額のコストとなるため、例外・特別な場合は理事会で検討していく。

→賛成多数で承認

#### 5. 定款、会員規程の修正及び永年会員規程の制定について（規約委員会）

会員モデルWGにおいて永年会員・学生会員枠の創設について検討している。

詳細については2月以降の理事会で提案していく。

今回は報告のみ。

#### 6. MTDLP 補正予算について（MTDLP 推進委員会）

補正予算申請について別紙を用いて説明。

申請理由は、事業計画よりも研修会開催数が増加し、それに伴い講師謝金も増加したため今回の申請となった。

申請金額は32万5千円。

→賛成多数で承認。

#### 7. 能登半島地震における支援について（吉本理事）

能登半島地震を受けて、当会としても災害発生時に支援するという方向性を決定していきたい。

審議事項としては、①災害発生時に支援を行うか否か、②能登半島地震への支援について行いたい。

まずは各理事の意見を聞きたい。

過去、東日本大震災もあったがその際は話題に挙がらなかったためぜひこの機会に議論したい。

Q.コントロールはどこで行なっていくのか。

A.どこの部署で行うかなどはまだ決まっていないため、具体的な案は理事会で検討していく。

Q.災害対策委員の役割だけでなく県士会として何か取り組んでいくという形で良いか。

A.詳細については今後検討していくが本件については三役からの提案となる。

→賛成多数で承認。具体的な方法は今後検討していく。

<神保会長>

意思決定のプロセスが大切。できる限り早急な支援を行いたい。埼玉県と栃木県は会員一人当たり100円の募金をするという事になっている。取り急ぎ必要なものはまずはお金かと思う。前向きに支援についてご意見頂きたい。

#### 8. 追加審議：学術部スキルアップ研修からのご提案

スキルアップ研修会の講師よりチャリティー研修会にできないかとの提案があった。

すでに講師から講師謝金は寄付したいとの申し出があり、研修会費も寄付としたいと考え、このような取り組みを行なっても良いものか審議をお願いしたい。

審議事項①この研修会を県士会としてチャリティー研修会として開催してよいか

②研修会費の全額または何割かを支援金として寄付してもよいか

③集めたお金をどこに送るのか

④石川県のOTまたは石川県の学生を無料にできるのか

<質疑応答>

Q.講師の先生には気持ちのある申し入れで感謝している。このような形の研修があってもいいのではないか。被災地が複数あるため、どこまでの範囲の方が無料で参加できるのか、どのくらいの金額を送るのか、チャリティー研修会を学術部のみならず他の部でもやるのかなど、詳細については意見をまとめて統一してもらえたらと思う。

Q.チャリティー研修会の目的が当会の目的事業と合致しているのか。

A.心身の健康の向上においては寄与していると感じるが、収益の送り先を検討してもよいのではないか。

Q.事業を起こすにはコストがかかるため、事業費用は受け取り、その上で別でお気持ちとして出すというのもよいのではないか

A.財務部として、講師謝金を支援金に使うのは講師のお気持ちなのでよろしいかと思うが、現段階で神奈川県士会が支援金を渡すなど話ができている段階で審議までいくのはやや難しいと感じる。全体的な流れや方向性を決めてから対応について検討することが望ましいと考える。

A.講師のお気持ちは尊重すべき。参加費については検討する必要がある。講師謝金のみを寄付する形でもよいのではないか。

A.細かい参加費の扱いが困るようであれば、銘打ってチャリティーセミナーとして記して、研修会費、謝礼などを支援金として扱うという文言にしておくのもよいか。参加者の中でも、参加することでチャリティーに関わりたいと思う方もいると思われる。

→具体的な方法については担当者間で検討する上で賛成多数で承認

#### IV. 2024 年度事業計画・予算案について

各部署事業計画は変更なし。

次年度予算案が本年度の予算と比べて+300 万円となっている。今後状況に応じて連絡をさせて頂く。

#### V. 会員モデル WG について

5月の社員総会で永年会員、学生会員を提案したいと考えている。

1月の会員モデル WG の結果について報告。

背景：永年会員、学生会員、正会員、その他について

課題を抽出して情報収集を実施した。会員の年齢層（人口ピラミッド）を作っていかなければいけない。

課題：学生会員は群馬県が実施しており参考にしていく。（特典については詰める必要あり）

正会員は代議員とも話をするなど接点を持っていきたい。

年齢分布：2322 名を分析。グラフ上で 30 歳代→20 歳代→40 歳代が多い。

在会年数：10 年以下、20 年に至るまでの方が多。

今後、養成校が減少、日本の人口の減少をみると数値は下がってくることが予測される。

30 年後、会員の約 50%が永年会員となる。間口を広げることが大切となるため学生会員制度を充実していけると良いのではないかと思う。さらに入会を促進させていく方法を検討していく。

永年会員は会費 3000 円、学生会員は初年度の入会費を無料にすることを検討。

<質疑応答>

Q.途中で退学や留年をすることもある。初年度の入会していく時期がずれることもあるが運営は可能か。

A.留年や退学時は書類を提出してもらいなどの対応方法を検討している段階。

Q.退会をどうするか。「学生会員は 3 年以上継続して本会から通知または催促が到達していない場合は退会となる」という文言を規約に取り入れてはどうか。

Q.在会年数は平均どのくらいか。永年会員は 65 歳以上も 3000 円ということで良いか。

A.在会年数は年齢によって幅がある。(10年以下～50年の幅がある。)平均としては10年前後。

永年会員は年齢で区切りをしている。県士会に参加している方に対する恩返しということで、継続的に会費を払ってくださっている方であれば65歳以上になっても会費を払うことも可能でないかと考えている。

Q.学生会員についてどのようなメリットがあったか。(群馬の取り組みについての成果)

A.全国で会員が増えているところは1つもなく、群馬についても学生が終わったら終了となってしまっているように感じる。学生会員と紐付けて会員数の増加を図りたい。県外からの学生も誘導できるなかたちにしていければさらに会員数増加に繋がると考えている。

Q.学生会員の権利(特典)について明示しておく必要がある。

Q.永年会員の権利(特典)が正会員とほとんど一緒かと思うが今後検討していくのか。また大学院に行かれている方は学生会員なのかどうか。

A.権利に関しては、検討していく。

学生会員は作業療法士の養成校ということで統一。大学院生は正会員として対応する。

A.永年会員は正会員と同じ権利。学生会員についても検討していく。

→改めて意見を聴取し、2月度理事会で審議予定する。

## VI. 公益法人化に関する意見交換

方向性を検討、決定するため以前理事へアンケートを行った。その中で公益化していないことで不利益となっていることはないという認識であった。今後の方向性として公益化が必須であれば、公益化しなければならず、必須でなければどうしていくか、先送りにするのかなどを今後議論する必要がある。

Q.これまでは公益化を進めたほうがよいと考えていたが、専門家の方が医療職としての職能団体をうたっている時点で社会性があるという言葉が印象に残っており公益化にこだわらなくてもよいと感じている。例えば医療系の団体で公益化している割合はわかるか。

A.全国のOT士会で公益化しているのは8か所。県内の医療職団体では13団体中9団体が公益化している。

A.全国は医師会、看護協会、栄養士会、放射線技師会などは全県とっている。自分たちが今後どこを目指すのかを明確にしないと公益化の審議は難しいと考える。

→2月度理事会で審議を行う。

## VII. 報告事項(各部署・理事・三役)

### 1. 選挙管理委員会

(1)代議員候補選挙に関して

推薦候補を募集しておりBブロックが不足している。引き続き広報をお願いしたい。

### 2. 事務局

(1)県士会発行領収書について

原則はピーティックスからの発行となるが会員から問い合わせがあった場合は県士会事務局で押印したものを発行する。

(2)源泉所得税について

講師謝金支払後は翌月10日までに源泉所得税を納める必要があるため速やかに報告書を事務局に提出してもらいたい。

(3)2024年度社員総会について

2024年5月12日(日) 9:00～13:00(総会の時間は調整中) 神奈川労働プラザ(石川町駅)で開催。

総会までのスケジュールは別紙参照。議案書の作成、事業執行を進めて頂きたい。

(4)Google クラウドルームの使用について

1 月度理事会後から試験運用を開始予定。今年度は理事 ML も併用で運用する。

格納庫については「X ドライブ無料版」を使用し、理事 ML に代わる連絡ツールを検討していく。

連絡ツールについては無料版の使用を優先とする。

(5) OT 協会山本協会長との意見交換会について

2024 年 2 月 7 日(水)19:00~20 時半(終了時刻は予定)、オンラインで開催。

参加希望、県土会の取り組みについて Slack 上に掲載済み。

## 【その他報告部署・理事】

### 1. 制度対策部 渉外報告（質問のみ）

(1) 自動車運転：12/2 運転と地域移動に関する都道府県土会協力者会議<web>

(2) 災害対策：12/10 災害支援研修会<web>

(3) (一社) 神奈川県精神科病院協会創立 60 周年記念式典

(4) 2023 年度 POS 第 6 回合同会議 (PT 土会リハ手帳普及部)

## VIII. 監事より

野々垣監事：お疲れさまでした。災害の件、東日本大震災や熊本地震の際はなにもできなかった。議論になるのはいいことだと感じた。関東もいつ発災するかわからないため、こちらで何かがあった際の受け入れ体制なども考えていく必要がある。今後も引き続き検討してもらいたい。

錠内監事：チャリティーについて、謝金や参加者の人数に合わせて県土会で金額を決めて支援金を送るなどを提案したい。また石川県土会に受け入れ体制があるかどうかは確認しておきたい。相手側の土会がやりやすい体制で行っていただけると考える。

議事録署名人	議長：	神保 武則	印
	理事：	玖島 弘規	印
	理事：	澤口 勇	印
	監事：	野々垣 睦美	印